

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）

【対象者別】社会人・経営者・大学生世代【概要】

日時：令和4年10月5日（水）

19時00分～20時00分

場所：女性総合センター

1 開会の挨拶

（市長）

こんばんは。市長の清水です。社会人と学生の皆さんがお仕事や学校がお忙しい中で、市へ意見を述べる時間がなかなか取れないと。私どもも、なかなか皆さんと意見交換ができません。本日は、ぜひ、皆さんからいろいろな価値観、あるいは意見をお聞きしまして、立川を住みやすいまちにという思いからの今日のこの催しを開催しています。

事前に、皆さんからの思いや質問をお伝えいただいているわけでありますが、こういう形で顔を見合わせながらやり取りをきちんとまとめていく、そういうつもりでおりますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

2 意見交換

（司会）

まず事前にいただいたご質問について、市長の清水からお答えをさせていただきます。

お一人目、求める人材についてということで、「市役所はどのような人材を求めていますか。また、どのような人が向いていますか」というご質問です。

（市長）

求める人材についてですが、私は、立川市が「多摩地域の中心のまち」であることを意識し、立川だけではなく、多摩地域全体が持続的に発展するための牽引役としての役割を、職員には担ってほしいと考えています。そのため、本市では、求める職員像として「自信と誇りを持って、自ら考え、市民の立場に立って、凛として行動する職員」を掲げ、そうしたことを実践できる、また成長できる人を求めています。そのような人材に成長するためには、他人の意見やアドバイスを受け入れる素直さ、市民のために熱意を持って全力を尽くせるひたむきさが重要であると考えています。そうした姿勢があれば、時代の変化に合わせて、自ら課題を見つけ、成長し続けることができ、立川市に貢献してくれるものと期待しています。

（司会）

それでは、次の質問へと移らせていただきます。市の職員を目指す学生に期待することということで、お二人目、「大学生時代、どのような経験が市役所の仕事に役立ちますか。また、市役所職員を目指す学生へ求めることや期待することは何ですか」というご質問です。

（市長）

市職員を目指す学生の皆様へのアドバイスですが、個々の知識や能力は努力次第で入庁後に伸ばしていくことができると思っております。学生時代の活動で、勉強はもちろん、

アルバイトや部活・サークル活動でも、全力で取り組み、そこから学びとることが重要だと思っています。市役所での仕事は、市民はもとより職場の仲間と進めていくため、円滑なコミュニケーションを図り、組織に貢献していくための社会性や感謝の気持ち、謙虚さ、などの人間力は磨いていただきたいと思います。また、多様性を尊重し、自分らしさを大切にできる人と一緒に、これからの立川市を作っていきたいと思っています。

(司会)

それでは、続いての質問に参ります。今度は、市長の市政に対する考え方についてのご質問です。「市長になる前と後で、市政に対する見え方、捉え方などが変化したか。また、どのように変化したのかをお尋ねしたいです」という質問です。

(市長)

私が市長に就任したのは平成19年です。現在4期目で、市長になって15年が経過したところです。市長になる前には、市議会議員を約9年、収入役を約12年務めていました。市長の任期を含めると、市に関係する仕事を通算で36年務めていることになります。市長になる前からさまざまな形で市政に関わってきましたが、市長になって改めて考えたことは、「市民の皆さんにいかに納得感や安心感を持っていただけるか」を第一に考えるようになりました。そのために必要なことは「決断力」です。市民の皆さんからお預かりした税金をどのような事業に使っていくか。1円たりとも無駄遣いはできないという思いでこれまで決断してきました。その考え方の根底には、市民の皆さんの生活に寄り添っていくという思いがあります。「多摩地域のナンバーワン」を目指すのではなく、市民に寄り添っていくことを選択してきました。そうすることで市民の皆さんに納得感や安心感を持っていただけると考えています。

(司会)

それでは、続いてのご質問です。学習スペースについてのご質問です。「現在、立川市では、中央図書館などで学習席は設けられていますが、座席数は20席となっております、より多くの学生が利用するには難しいのではないかと思います。経済的事情、また複雑な家庭環境などで塾や有料の自習室が使用できない子どもにも広く学習する場を提供することで、子どもにとってもより住みやすい立川市になるのではないかと考えました。教育環境の提供について、立川市の取組や市長のご意見について伺いたいと思います」というご質問です。

(市長)

学習スペースに関してですが、中央図書館では本年7月より新しく9席から20席へ学習机を増やしたほか、女性総合センターの5階ロビーや市内6つの地域学習館に一部設けています。また、学習塾に行くことが経済的に困難な中学生に対し、週1回、市内4か所、子ども未来センター、社協、幸学習館、上砂会館で、大学生や教員経験者などのスタッフが、少人数グループ形式で指導する学習支援を行っています。学習スペースについては、未だ不足しているとのことなので、現在、建設計画を進めている砂川学習館において新たなコミュニティスペースを設け、活用を考えていきます。

(司会)

それでは、続いてのご質問です。気候変動対策に関してということで、「立川市において、気候変動対策を進める難しさについて伺います」というご質問でございます。

(市長)

気候変動対策に関してですが、気候変動対策は地球規模の課題であり、市だけの対策には限界があります。市民・事業者の取組が無ければ対策は進められませんが、効果がすぐに目に見えてくるものではありません。このため、市では省エネや再生可能エネルギー設備の設置を進めるとともに、環境に配慮した行動が取れる人材の育成が重要との考えから、環境学習の支援や、各種イベントによる周知啓発などを行っています。

(司会)

では、続いてのご質問です。今度は、子育て支援についてということで、「子育て世代へ対して、経済的・物的支援拡大を希望するのですが、具体的な案があるかどうかお聞きしたいです」というご質問です。

(市長)

子育て支援についてですが、今般の物価高騰の影響で、出産後の産婦の方はさらに不安が増していることと思っております。そのため、「たちかわ版・出産応援育児パッケージ」として令和4年4月1日から令和5年3月31日までに出産した世代に育児用品等の購入に利用できるSuica20,000円を配布することといたしました。また、令和5年4月1日より、中学3年生までであった子どもの医療費助成を高校生年代まで拡大いたします。さらに、これまで子どもの医療費助成制度に設けていた所得制限及び自己負担額200円について、来年度の医療証の更新時期、令和5年10月1日に撤廃することを現在検討しております。

(司会)

それでは、続いてのご質問です。デジタル推進の方針についてということで、いただいた文章をそのまま読ませていただきます。「当社では、デジタル推進による社内変革の推進が強力に進んでおります。自治体においても、コロナ禍の影響もあり、マイナンバーカードの活用など、推進を行っているかと存じます。立川市としての今後のデジタル推進における利便性の向上及び情報漏洩防止のための防衛に関しての展望をご教授いただきたく、よろしく願いいたします」というご質問です。

(市長)

市のデジタル化についての方針ですが、現在、市はDXを着実に進めていくにあたっての考え方や方向性などについて、『立川市DX推進基本方針』を策定しているところです。今後はこの基本方針に基づき、市民の利便性の向上とさらなる事務の効率化を進めてまいります。また、DXの推進にあたっては、利便性とセキュリティのバランスを考慮する必要があります。国が定める情報セキュリティポリシーに関するガイドラインなどを踏まえながら、安全で高品質なサービスを提供できるよう、東京都とも連携しながら取り組んでまいります。

(参加者)

ご説明いただきありがとうございます。1つ確認させていただきたいのですが、DXの方針書について、作成中ということで今ご説明いただきましたが、立川市民がそちらの方針書を拝見する機会はいつ頃になりそうか教えていただけますでしょうか。

(総合政策部長)

私のほうからご説明をさせていただきます。今、基本方針として、素案というものを作らせていただいています。そちらの内容については、これから、10月から11月の間に市民の皆さんに内容を見ていただき、ご意見をお寄せいただく予定です。それをご覧になりま

して、立川市でもっとこういうことをやってもらいたいとか、こういう内容では不十分ではないか、先ほどのセキュリティの問題もありますし、本当に大丈夫なのか、それからもっともっとデジタルを使ってやり取りをやっていきたい、もっと便利になってもらいたいとか、そういったお声をいただくような形のものをこれから公開していきます。市の広報紙、ホームページでお知らせをしていきまして、公共施設にもご覧いただけるように配置していきますので、ぜひご意見をいただければ、我々はそれを参考によりいいものを作りたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(司会)

それでは、続いての質問に移らせていただきます。続いては、防災対策についてです。「立川市の災害防災対策について、実際に地震が起きたら市民はパニックになると思いますが、立川市で取り組んでいる対策などあれば教えていただきたいです」というご質問です。

(市長)

市の防災対策についてですが、首都直下地震の切迫性が高まり、立川市周辺でも大きな被害が発生する危険性がある中で、大規模な地震をはじめ様々な自然災害が発生しても「被害を出さない」、「被害を軽減する」、「避難・救助を円滑にする」など、減災の視点からの取組が大変重要となっております。市では、防災、減災への取組として、「災害に強い都市」、これをまちづくりといたします、「市民、地域の防災力の向上」、これは人づくりということ、それから「市民、地域、事業所等の連携・協働」、これはしくみづくり、そして「危機管理体制の整備」、この各取組を推進しているところでございます。

(司会)

では、続いての質問に移らせていただきます。くるりんバス廃止と代替交通についてということで、くるりんバスを廃止するべき理由と代替交通のご提案を事前にいただいておりますので、それに対する市長のお答えをお願いします。

(市長)

くるりんバスの運行につきましては、周辺市と比較して1台当たりのコストが過大とはなっておりませんが、引き続き利用者増とコスト削減の工夫に取り組んでまいります。また、超高齢社会や地域ニーズを踏まえた新しい交通手段の検討を、地域と連絡して行ってまいります。

(司会)

続いては、人口増加策についてのご質問です。「立川の税収を上げる方法は人口を増やすことだと思いますが、そのためには都市計画や不動産業を応援することが重要でしょうか」というご質問でございます。いかがでしょうか。

(市長)

人口増加の要因として、出生数と死亡数の差による「自然増減」、転入数と転出数の差による「社会増減」があります。本市では、近年、自然減が続いていますが、それを上回る社会増によって、全体としては増加傾向となっております。都市計画や不動産の動向は、人口増加の一因であるとは思いますが、それだけではなく、安心して産み育てることができるかなど、様々な要因が人口の増減に影響を与えていると考えられます。今後も総合的に施策を推進することにより、「住みたいまち」として発展するように努めてまいります。

(参加者)

市長、ありがとうございます。私は、立川市議会議員を目指して活動している立場でございます。私自身、視覚障害があって、これまで福祉関係には注力していたんですが、立川市のことを俯瞰的に見ると、例えば障害福祉業界に新たに10億円の予算をつけて困っている人を救ってほしいと提案したとしても、その10億円をどこから持ってくるのかという議論になるわけです。私としては、そこら辺をしっかりと俯瞰的に見て提案をしなければ、ただ言っているだけの政治家になってしまうと思ひまして、今のご質問をさせていただきました。今、市長から教えていただいた自然減と社会増減という部分についてであります。引き続き、ある意味自分が市長だったらという視点も持ちながら、よりよい提案ができるように勉強してまいります。質問ではないんですが、ありがとうございました。勉強になりました。

(参加者)

これは答えづらい質問だと思いつつ、気になっていることがちょっとだけ。立川市に住みやすい福祉のまちづくりというのは重要だと思うんですが、一方で、我々のような障害者の方が増えると、財政面で言うとやっぱりお金は出ていってしまいますよね。私も、お金を頂いている立場です。困っている人を救うのは重要なんですが、需要と供給のバランスというか、困っている人を救うとってどんどんそこにお金をつけると、予算がなくなってしまう。これも事実なのかというのを、答えづらいと思うんですが、気になっていまして、よろしくお願ひします。

(市長)

私どもの市の会計についてですが、まず市民の皆さんから税金を納めていただきます。立川市の場合もう1つ、競輪事業があります。競輪を行うことによって数億円の収入になります。それらの収入によって、現在、立川の会計は収支のバランスが保たれているということでございます。

(総合政策部長)

少し補足をさせていただきます。当然必要なところにお金を振り分けていかなければいけないと考えてはいますが、限られたお金をどう振り分けていくかというところになりますので、たくさんの方に立川にお住まいになっていただければ、当然住民税という形で立川市にお金を納めていただくようにはなります。これが、だんだんと人口減で住む方が少なくなってしまうと、当然市に入ってくるお金は少なくなり、今まで継続していた市民サービスが低下してしまいます。そういったところを、どうバランスを取ってやっていくか。当然、東京都や国から補助金は頂けることは頂けるんですけども、それにも限りがあります。そういった中で、たくさんの方に住んでいただき、納得していただき、税金をまず納めていただけるという、そういったまちづくりをまずしていきたいと思ひます。それから、先ほど市長が語っていましたが、立川では立川競輪という公営競技があり、皆さん、競輪を楽しまれている方からお金を少しずつ市のほうに納めていただいているという、ほかの市にはない財源もあります。こういったことも、魅力のある、立川競輪場で皆さんに楽しんでいただければ、またそれも市民のためになるという形で、いろいろな事業を展開する中で、先ほど言われていた子供たちに対して優しいまちづくり、また福祉という形で皆さんに納得していただけるまちづくりをこれから進めていきたいと考えております。またたくさんのご意見をいただければと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(参加者)

ありがとうございます。私たちとしても、お金には限りがあるなということ、その俯瞰的な勉強というのも当事者同士でもっと進めていくべきだと思いました。ありがとうございました。

(司会)

それでは、続いては、昭和天皇記念館の活用についてというご質問です。「昭和記念公園の昭和天皇記念館が閑散としている。国の施設ではあるが、立川市として記念館のPRや活用などできないものか」というご質問でございます。

(市長)

昭和記念公園は、立川市内におきまして最も来訪者数の多い施設であります。市の重要な観光エリアとして認識しております。昭和天皇記念館のみを取り上げて周知をすることは行っておりませんが、引き続き昭和記念公園の周知・活用に取り組んでまいりたいというところでございます。

(参加者)

こちらの記念館、日曜日に私1人で訪れたところだったんですが、特に昭和天皇が乗られた御料車という車がありまして、天皇が乗られた車というのは、多分全国でも展示しているのはここだけという説明がありました。帰り際に、受付の方に、今日のこういった「市長と語ろう！」の会とかでPRを広めてよいですかと聞いたところ、ぜひお願いしますと言われましたので、ぜひご検討願いたいと思います。

(総合政策部長)

ありがとうございます。立川市の昭和記念公園、昭和を記念した公園です。昭和天皇の記念館ですが、中に入るとすごくいろいろな展示物がございます。実際に、平成のときの天皇、皇族の方も常々来られて、中もご覧になっております。こういった昭和の記念をしている公園は、全国でもここ立川にしかありません。昭和記念公園を含めて立川市の財産ですので、PRをして、立川の観光の大きな資源でもありますし、そういったものは全面に出しつつ、記念館だけというのはなかなか難しいですが、昭和記念公園全体を立川市の一つの観光資源として、これからもずっと大きく宣伝をする。そして、ここに来訪していただける方は、年間、多いときで数百万人という方が立川に訪れております。市民の方も、年間のパスポートを持って日々憩いの場として使われている方もたくさんいらっしゃいます。市民の方のみならず、日本全国、これからまた外国の方も日本に来られることがあれば、中に日本の庭園もございますので、それと併せて天皇記念館も見いただけるようなプロモーションをしていければと思っています。ご提言ありがとうございます。ぜひ参考にさせていただけたらと思います。

(司会)

続いてのご質問です。夢育て・たちかわ子ども21プランについてということで、「第4次夢育て・たちかわ子ども21プラン期間中、親や子供はもちろん、虐待サバイバーなど、意思決定プロセスに多様な当事者が関わる仕組みはあるか」というご質問でございます。

(市長)

「夢育て・たちかわ子ども21プラン」に関してでございますが、本市においては、「夢育て・たちかわ子ども21プラン」を推進するための組織として、「夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議」を設置しております。この会議には、学識経験者等のほか、子供の保護者として2名、公募委員として一般市民3名、それと中学・高校生の子ども委員5名が参

加し、それぞれの立場や経験に基づいた多様なご意見をお聞かせいただいています。また、協議テーマ等によっては委員以外のゲストをお招きしています。こうした会議体に子ども自身が委員として参加することは、全国的に見ても珍しい取組と考えております。

(司会)

ここまで、事前にいただいておりますご質問について、お一人様につき1問ずつ市長からお答えいただきました。ほかにご意見があればお願いします。

(参加者)

ありがとうございました。気候変動について質問しました。何で立川市で気候変動対策が難しいかという質問に対して、お答えとしては、地球規模の問題であるから市だけでは難しいということだったと思います。でも、私はその認識は違うかなと思ったので、ちょっと意見を言わせてください。今、国では地域別炭素ロードマップというものを作っていて、地域から脱炭素をしていこう、しかもただ地球温暖化対策をするだけじゃなくて、経済循環とか地域課題の解決をひっくるめてやっていこうということがあります。今、ウクライナ情勢もあって難しいとは思いますが、例えば地域新電力を域内につくって、今個人が払っている電気代は全部立川市以外に、全部じゃないけれども、立川市外にめっちゃ流れてしまっているんですが、それを地域内でうまく循環させるようにしようみたいな取組をやっているところもいっぱいあります。ですので、市だけでは難しいというのは改めていただきたいというふうに思っています。ありがとうございました。

(総合政策部長)

こういう環境の問題は、地球規模の問題で、市だけでやってもなかなか進まないというところで、先ほどのご意見だと思いますが、当然、そういったことで全て片づけてしまうと何も進みません。立川市がしっかりやっていかなければいけないだろうという、そういった考え方も我々は持っています。実際、今、国が2050年のカーボンニュートラルを掲げて、よりそういった削減量を大きくしていこうという動きにあります。立川市についても、ついこの間、カーボンニュートラルの基本方針を一旦つくらせていただいています。もともと国は、2030年度に2013年度比46%の削減を目標としていますが、立川市はさらに上乘せをしていこうということで、今方針を立てています。そちらについては、どういったことをやるのかというのは、当然予算が非常にかかってくることとなりますので、まずやれることを我々はやっていこうと思います。電気についても、照明をLEDに替えて、なるべく電気を使わないようにしたり、市の公用車も、全部ではないですけどもガソリンの車を、できるだけ電気自動車にしていこうと。当然、電気を使うには、また発電の問題がその裏にはあり、いろいろな問題が絡んできますけれども、電気の使える電気自動車といったものであれば、災害のときも逆にそこから電気を供給することもできますので、少し取組を、来年度の予算を今つくっている中で、少しずつやれることはとにかくやっていこうではないかというのが市の考え方です。この間の議会など、いろいろなところでお答えをしている中では、これは地球規模だから立川市だけではなかなかできないというお答えはしていたとは思いますが、まずは立川市でできることをやっていこうと。これから古い公共施設を立て替えていきますけれども、そういった施設には太陽光であったり、いろいろな発電の装置をつけていこう、市でできることはできるだけやっていきたいと思えます。また、電気の供給の問題についても、いわゆるエネルギーの調達の方法、どういったところからエネルギーを調達していくのかということも少しずつ見直して、できるだけ環境

に対してはしっかり市が取り組んでいくんだというところは、これから市民の皆さん、いろいろな方々に見せていければと思っています。そういった方針が、今1つ出来上がりました、この間の9月の市議会で内容を市長から発表しましたので、これから来年度の予算などで、具体化していく段階になります。ですので、またいろいろご意見を市にたくさんいただければ、少しずつ採用させていただければと思います。よろしくお願いします。

(参加者)

ありがとうございます。今まで地域の全体としての目標がなくて、どこに突っ込んでいかが分からなかったのも、ありがたいなと思いました。ありがとうございました。

(参加者)

先ほどのコミュニティバスの件についてです。まず、質問です。既に5台とも、そろそろ更新の時期に差しかかっております。バスを買い換えて継続をすることを考えていますか。それとも、車両の買換えを行わずに、全面的に新しい交通手段へ変えることを考えていますでしょうかということです。

2番目。柴崎町、富士見町、青梅線の線路から新奥多摩街道まで、事実上バスの空白地帯になってしまっています。こういったところが、今後増えていくと思います。この観点からも、今くるりんバスというのはそういうところはカバーできなくなっていますので、もっと小回りの利く新しい交通手段、特にくるりんバスって一般の路線バスに比べると女性のお客様が圧倒的に多いということも鑑み、そのような方向でご検討いただけたらと思います。

それから、もう1点よろしいでしょうか。これは立川市ではどうにもならないことなのでしょうけれども、中央南北道の延伸に関することです。中央南北道は、現在五日市街道のところで行き止まりとなっております。今後の計画としましては、玉川上水のところで新しくできる3・3・3、新五日市街道と交わる場所までの延伸が計画となっております。けれども、そこまで行かなくとも、取りあえず比較的土壌が確保されております平成新道までの区間だけでも前倒して整備し、これによって、現在五日市街道経由で村山方面へ向かっております路線バスの一部だけでもそのルートの中中央南北道・平成新道経由で向かうことにより、以前あったくるりんバスの北ルートの代わりに足として確保していただきたい。あの地域の方々は、北ルートがなくなってから大変不便な思いをされていますので、その辺りのところもお聞かせいただけたらと思います。本日はありがとうございました。

(総合政策部長)

私のほうからお答えをさせていただきます。車両が、そろそろ耐用年数だということのお話でございます。基本的には、その後の、くるりんバスを新しく買い換える、その辺についての結論、確定は、まだ私のほうでは担当からは聞いておりません。ですので、現状は今の形で進めて、代替りのものを何かまた考えていく作業もありますが、現状は、くるりんバスというのは継続をしていく内容となっております。ただ、先ほど言われている空白地帯などは、もう少し小回りの利いた、いわゆるデマンド型ワンボックスの車を地域で走らせている自治体も多く見られるようになってきておりますので、そういったものに替えていけるのかどうかというのは、今庁内で議論をしています。交通不便地域には、外出するのにお困りの方が、たくさんいらっしゃると思います。いわゆる交通弱者と言われる高齢の方、自分で自転車であったり自動車であったり、徒歩で動くのもなかなか困難な

方々に対しては、福祉的な視点での移動手段というところも含めながら、今、市全体で、福祉部門も含めながら考えています。くるりんバスというあの車両でいいのか、それとももう少し小回りの利いた、少し狭い道にも入って行って、自分の家の近くまで来ていただいて、また近くで降りられる、そういったことも手段としてはありますので、何が一番求められているのか、その地域で多分求められる車両も違ってくると思います。ですので、それを今検討して、結論は出ておりませんが、そういった議論は今庁内で進めておりますので、また機会があればご意見をいただければと思います。

それから、中央南北道の市役所のところの道については、市長のもともとの公約でもございまして、南側、中央自動車道に直結をさせて、防災基地としてあそこの道を最終的に機能させていきたいという思いを持っております。立川市だけではなかなか、都市計画道路でありますので、東京都を含めて、都知事にも市長自ら申入れをさせていただいて、できるだけ早期に、都市計画道路の実現については訴えております。小池都知事のほうにも、また機会があれば市長からこの件については申し入れていきたいと思っております。ありがとうございます。

(参加者)

「第4次夢育て・たちかわ子ども21プラン」についてなんですけれども、先ほど、推進会議の中に、子ども含め一般市民の参加があるというお答えをいただきましたが、例えば新しく参加したいとか、そういった場合はどのような窓口があるのかというのを伺いたいです。よろしくをお願いします。

(総合政策部長)

先ほど説明させていただきましたが、こういったプランがしっかり機能しているかどうかを見ていくという形の推進会議を設けております。こちらについては、任期がありますので、任期が切れるタイミングで市民の皆さんの公募を広報やホームページ等を通じて行ってまいります。その際に公募をして、何人か応募されている方の中から、一般市民の公募委員として3名、それから、立川の場合は全国でも珍しいですが、実際の子どもの当事者、中高生の方にも中に入っていてご意見をいただくために、そういった方々もまた公募をしていきます。基本的には2年の任期だと思いますので、ホームページなどで調べていただければ分かるかと思いますが、任期の切れるタイミングで公募をしていきます。ですので、ぜひその辺については注意して広報やホームページを見ていただいて、お手を挙げていただいて、ご意見をその中でいただければ、直接またいろいろなところに通じていけるかと思っております。

(参加者)

先ほど学習スペースについて質問させていただいたんですが、学習スペースが立川中央図書館で20席に増えたとはいえ、まだ不足しているのではないかと思います。私の地元は鹿児島市になりますが、コロナ禍で座席数が制限されているとはいえ、調べたところによりますと、市立図書館では全部で80席ほどの学習室、県立図書館になりますと100席近くの座席数が設けられており、そこが連日満席になるほど中学生や高校生を中心に多くの生徒が図書館の学習室を利用しています。市の事情はそれぞれ異なっているかと思いますが、鹿児島市と立川市の規模を比べますと、やはり立川市のほうが大きいと思いますし、より学習席を求めるニーズはあるんじゃないかなと思います。先ほど、砂川学習館に新たなスペースを設けられるとのご回答をいただきましたが、そこを具体的に伺いたいのと、より

多くの学習席を設けていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(総合政策部長)

学習スペースのご要望は、すごくたくさんいただいております。特に、夏休みの時期は公共施設で勉強したい、また受験勉強をされたいという方はたくさんいらっしゃいます。この建物の下の部分が中央図書館になっていますが、ソファなど本を読むスペースはたくさんありますが、当初はなかなか、机があって勉強をするスペースというものもともとない造りの図書館でスタートをしています。ただ、ご要望はたくさんいただいています。この間20席を増やしたのは、市内の家具屋のイケアさんからいろいろな家具を提供していただき、専門家の方に中を見ていただいた上で、こういった形であれば少しスペースを増やせるというプランをいただきましたので、イケアさんに少しお手伝いをさせていただいて整備しておりますが、それでもまだ足りないというところはあります。ですので、先ほど説明しました砂川学習館が、今市役所の北側のところ、ちょうど立川の陸上自衛隊の基地の滑走路の北側のところに古い建物で学習館がありますが、そちらを立て替える予定になっていて、今設計を行っています。そこに、市民のコミュニティスペース、たくさんの方が集まってということで、学習だけのスペースではありませんが開放スペースを造っていきます。地域の学習館はたくさんありますが、そういったところも少しずつ開放しながら皆さんに使っていただければと。ただ、一番ご要望が多いのは、やはり図書館にそういったスペースを造ってほしいというのがあります。これから立川市では、古くなってきた公共施設を複合化してとか、いろいろな形で公共施設の再編をしていきます。そういった中で、そういったスペースが生み出せるか。新たに増やすというのは、先ほどもお話をしていました税金の問題で、お金をどれだけそこに投入するかということで、これから人口というのは必ず減ってきます。もう減る局面に入りますけれども、そういった中で大きなスペースを持ってしまうと、20年、30年、50年先の市民の方がそれを維持するためのお金を払うのが大変だというふうになってしまいますので、その辺のバランスを見ながら新しい施設を造っていきたい。ただ、今いる皆さんが欲しい施設についても、しっかりそこは応えられるように造っていきたいと思っています。図書館で足りない部分については、女性総合センターの5階のこちらの部屋について、夏休みの時期であれば空いているところは学習スペースとして受付をしたうえで自由に使っていいですよという形で、開放はずっと続けてきています。今はコロナ禍で、なかなか使う場所がありませんが、この部屋のこちら側、カウンターがあって、スペースのところは、学習スペースとして、かなりの学生の子たちが勉強するスペースをつくっていました。コロナの前はここを開放していましたので。図書館からこちらに上がってきて、ここで勉強していただくということでは、できるだけやっています。構造上、なかなか学習スペースを生み出すのが難しいですが、できるだけ多くのスペースは確保していきたい。本を減らして学習スペースを造るかというところで、その辺のせめぎ合いもありますが、今いただいた要望は、これから公共施設をどうしていくかというところでは、子どもたちの居場所や勉強する場所といったものは、市としてはできるだけしっかり提供していきたいと思いますので、またいろいろご意見をいただければと思います。ありがとうございます。

(参加者)

本日は、貴重な機会、どうもありがとうございました。

私自身、子供が2人おりまして、立川市役所に訪問する機会が比較的多いのですが、来

年度、子ども家庭庁が新設されるかと思われます。それに伴って、窓口等の変化があるのか、また職員の方の業務量は今後変化が考えられるのかどうか、教えていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(総合政策部長)

子ども家庭庁ができるというところで、特段それによって大きく業務が変わるということとは、今のところでは出てきておりません。やることは今までどおりというところにはなるかと思ひます。立川の場合は、もともと子育て支援についてはしっかりやっておりますので、子ども家庭庁のほうから様々な指示が来ても、そこは遅滞なくきちっとやっていけるかと思ひます。

それから、DX、デジタルの関係でひとつ。子育て中の方々がいろいろな申請や手続で、毎回毎回お子さんを連れて市役所に来るのも大変というところもございまして、子ども家庭庁の施策とは別に、DX、デジタルトランスフォーメーションのところではできるだけ市役所に来ないで様々な手続が簡単にできるようにはしていきたいと考えています。先ほどお答えしましたように、基本方針を出してまいりますので、こういった手続がデジタルであればありがたいみたいなことをお寄せいただければ、それはまた子育ての担当のほうに伝えていきたいと思ひますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

3 閉会の挨拶

(市長)

本日は、皆さんにお集まりいただき、そして私どもが今まで気づかなかったようなご意見を頂戴しました。さまざまご意見を聞くことで、立川の行政がしっかりと大勢の方々から認めていただき、育っていくものと固く確信をしているところでございまして。今日いただきましたご意見のように、今後も何かございましたら、ぜひ声にしてご提供いただければありがたいなと思ひているところでございまして。本日は、どうもありがとうございました。